



児童がデータベース構造を体感できる生物主題の排架

群馬県 沼田市立図書館

基本データ

所在地	群馬県沼田市西倉内町 821 番地 1
職員数	22 人
うち司書数	8 人
蔵書数	約 420,000 冊
利用登録者数	約 47,000 人
年間貸出冊数	約 264,000 冊
(児童用図書貸出数 約 94,000 冊)	

テーマ・活動のねらい等

【テーマ】子供の読書啓発、子供に対するサービスの充実

【活動のねらい】

- 生物科学は児童が親しみやすい主題であるため、情報蓄積や排列など、データベースの基本構造を学ぶのに最も適している。排列構造の深化を行うことで、情報リテラシー教育の教材としての付加価値を上げ、児童の利用促進と自発的学習を促すことを目的とする。

取組・活動の概要

- 平成 30 年 10 月、日本十進分類法新訂 10 版沼田市立図書館への導入に伴い、児童書生物主題への請求番号 5 桁の導入を行った。
- あらゆる記録媒体を扱うデータベースである図書館において、開架書架は極めて重要かつ身近なユーザーインターフェースである。
- 児童図書生物主題に、より構造的な排列を導入することで、情報リテラシー教育機関である図書館開架閲覧室に、児童がデータベース構造を感覚的に理解し、情報の階層構造や分類について学べるエリアを実現した。

取組・活動の工夫や特徴

- 市販汎用マークを利用しつつ、専門的職員である司書スキルを活用して、主題による請求（背ラベル情報）付与を行い、排列することで、より構造的な排架を実現した。
- 分類と請求の違いなど、図書館学（広義な意味での情報処理）を理解する司書等専門的職員がいれば実現可能。体系的な分類体系を理解した上で、資料の量と利用状況に対応した棚作りをするのがポイント。

取組・活動の成果や今後の展望

- 児童が縦覧的に棚を探しやすくなり、低学年を中心に利用が増加した。

